

ふくすけ利用者がめごとまと交流

「みんな元気でめんどいなぁ」

9月4日、認定こども園めごとまの年長児たちが、神室ふくすけの家を訪問し、利用者の皆さんとふれあいました。世代間交流を通して生活の刺激になればと昨年に引き続き実施したのも。手遊びや金山小唄の踊りの披露、似顔絵をプレゼントするなどして、楽しいひと時を過ごしました。利用者さんは「みんな明るくて可愛い。元気が出た」話し、喜んでいました。



▲元気な歌と踊りを披露。「みんな元気に長生きしてね！」

金山中3年生が「母校訪問」

学習補助や校内の清掃を

小中学校の連携を深めるために取り組んでいる「母校訪問」が9月5日に行われ、金山中3年生が出身小学校を訪問し、生徒らは学習補助や校内の清掃などを実施しました。金山小では、1年生の図工の授業と一緒に紙版画を制作。帰り際には「もう帰っちゃうの?」と話し、寂しそうに見送る姿が印象的でした。中学生も成長した姿を先生方に見せることができ、誇らしげな笑顔を浮かべていました。



▲金山小では5年生の「図工」や6年生の「国語」を訪問した

▼しっかりきつめに編むことが丈夫なイスを作るポイント



芸工大生が旧林業センターを利活用

ものづくりの拠点になればと木工WS

旧林業センター（片貝）の活用方法を模索している東北芸術工科大学の学生プロジェクトが8月31日、木工ワークショップを開催しました。「実際に手を動かして空間を作りたい」との思いで平成23年から整備開始。この日は、綺麗にリノベーションされた空間で約30名がコースターや麻縄イスの制作にチャレンジしました。学生らは「もっと地域の人に関われる場所になれば」と話していました。

▼初展示の風鈴。外から入る風に揺れ心地よい音色を響かせた



蔵史館で三浦陶房展

「線」をモチーフにした陶器がずらり

宮城県加美町で三浦陶房を営む三浦早苗さんと長男征太郎さんの作品展が9月9日～16日、蔵史館で開催されました。今年のテーマは「陶と遊ぶ～土と線が躍る～」。「線」の造形を加えた陶器類がずらりと並び、来場者は手に取るなどして見入っていました。征太郎さんは「今年で9年目。長く続けることができたのも町の皆さんのおかげ。できればまだまだ頑張りたい」と笑顔で話していました。



1_須賀洋子さん（松柳会）の舞踊「恋千鳥」 2_きららクラブ金山女性委員会による合唱 3_八幡会の柴田米さんは自身作曲の「かむろの里下向」 4_龍馬粋活きクラブの踊り

4回目の有屋ふるさと学習

名所めぐって有屋地域を学ぶ

8月31日、有屋小学校ふるさと学習が行われ、全校児童が保護者や地域の方と一緒に徒歩で地域をめぐりました。有屋観音、下向観音堂、馬頭観世音の3か所で、有屋をよく知る地域の先生がそれぞれの成り立ちなどを説明し、児童はメモを取りながら熱心に聞いていました。お昼は、地元の食材がたっぷり入った豚汁でお腹を満ちし、有屋地域の魅力を全身で感じた1日となりました。



▲厳粛な空気が漂う有屋観音。ここでは柴田清次さんが説明

まちのわだい



身近なわだい、お寄せください。
総務課 広報情報係 ☎52-2111(内線225)

寿大学舞台発表会

練習の成果を歌や踊りで披露

9月19日、寿大学舞台発表会が中央公民館大ホールで開かれ、約100名の来場者が町内各老人クラブの皆さんの歌や踊りを楽しみました。練習の成果を披露したのは飛び入り参加を含めた9組。舞踊「南部よされ」を披露した龍馬粋活きクラブの島森美奈子さんは「仲間を募って出演した。少ない練習で臨んだが上出来。何より楽しくできた」と満足げに話していました。

▼先輩の教室にお邪魔して先生から直接指導を受ける場面も



「中学校って楽しい！」

町内6年生が金山中へ体験入学

中学校生活の楽しさを味わい、スムーズな進学となるようにと町内の小学校6年生が8月29日、1日限定で金山中学校での生活を体験しました。児童らは1コマ50分の授業を5時間目まで受けたほか、先輩たちと同様のスケジュールで1日を過ごしました。ある児童は「特に数学の計算が難しかった。色々な面で中学校は違うと思ったが、楽しかった」と話し、期待に胸を膨らませていました。